

令和7年度 山形県立楯岡特別支援学校

校長室だより

令和7年7月18日(金)

No.9

校長: 古原常能

楯特の誕生→本校化→分校設置→10年の歴史→未来へ続く

毎年7月2日は、楯岡特別支援学校の創立記念日です。今年度は大江校が創立10周年の年なので、ご来賓の方々をお迎えし、創立記念式と記念コンサートを行いました。

今から18年前までは、一番人口の多い村山地区なのに知的障がいの特別支援学校がありませんでした。小学部1年生の児童も寄宿舎に入り、新庄養護学校等で教育を受けざるをえませんでした。保護者や関係者の長年に渡る夢が、ようやく平成20年に実現し、村山特別支援学校の分校「楯岡校」が誕生しました。その後、児童生徒数が毎年急増し、平成25年「楯岡特別支援学校」として本校化しました。続いて翌年には、西村山地域の知的障害のある児童を対象とする分校「寒河江校」が、寒河江市立高松小学校の空き教室を活用して設置されました。さらに平成27年、中学部・高等部の生徒の分校「大江校」が、旧大江町立三郷小学校を活用して設置されました。



開校して10年の歴史を刻む間、本校は北村山地域、分校は西村山地域の要請に応じ、教育相談、巡回相談、学校見学、学校公開など、特別支援教育のセンター的機能を発揮してきました。おかげで、地域の幼稚園や保育所、小学校や中学校、高等学校及び教育や福祉の関係機関から頼りにされる学校になりました。少子化によって、小中学校や高等学校の統合計画が進む中、楯岡特別支援学校の在籍者数は、分校も含めて現在も増加傾向にあります。地域の皆様に選ばれていることは、本当に有難く嬉しいことです。

この背景には、何よりも先生方が児童生徒のため丁寧な指導・支援を積み重ねていることがあります。そして、保護者の皆様をはじめ、学校医や主治医、関係機関の方々との連携協力も欠かせません。加えて放課後等デイサービスを運営する事業所の増加、市や町の送迎サービスの充実なども大事な要因です。本校と分校の未来に向けて、学校・家庭・医療・福祉・行政などの関係者が連携協力する仕組みを継続し、機能強化を図ることが求められます。そこで、学校公開や学校見学会など、地域に発信し、本校や分校のこと



を理解してもらう機会を大切にしたいと思います。7月に開催した本校の学校公開には108名、大江校の学校公開に53名、寒河江校の学校見学会には42名の方が来校し、大変多くの皆様に関心を持っていただいております。